

2017年度GTセミナー GTサミット 2017

第26号 2017年8月28日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

GTサミット 2017

2017年8月21日～22日にギビングツリー主催『GTサミット 2017』を開催し、全国から65園、計84の園長先生方にご参加頂きました。

今回のプログラムでは、白梅学園大学の無藤隆様、秋草学園短期大学の加賀谷崇文様を講師としてお招き、無藤様からは「これからの幼児教育について」。加賀谷様からは、「保育士養成校の学生の現状」についてご講演頂きました。

その他にGT代表の藤森先生の基調講演、懇親会、地域活動報告、園見学を行いました。

藤森代表の基調講演「幼児教育改定の目指すところ」の講演録は、最終ページに掲載しています。

ギビングツリー地域活動報告

現在、全国16の地域でギビングツリーの自主的勉強会が行われています。各地域により、勉強会回数やテーマも異なりますが、今回は下記の地域の皆様から勉強会の様子をお話して頂きました。

仙台代表 バンビの森保育園 壺岐 美津子 様

H17年に4園からスタートした勉強会も現在20園で活動中。
年に2回大きな勉強会の開催、012歳…の年齢ごとの分科会を担当の先生が集まり園見学などを実施をしています。

今後の勉強会予定：定期的に分科会を実施中



GTサミット 2017



特別開催のご案内
園庭の在り方を再考してみませんか？

当園は、1997年創設以来、子育て支援や地域交流の場として活動してまいりました。今年も園庭を再考し、環境づくりを進めています。また、入園する園児の年齢も広がってまいりました。いかに園庭を有効活用できるかを再考し、そのための取り組みとして、いくつかの集まりを計画してまいりました。エルフェデザインさんの協力で新しいプランが、この19日はぜひご参加くださいとお願いいたします。

子どもから子育て世代まで多くの方にご参加ください。

つまりは、園庭についてどうするかを考える際に、園庭の在り方を再考してみませんか？ 園庭の在り方を再考し、環境づくりを進めています。また、入園する園児の年齢も広がってまいりました。いかに園庭を有効活用できるかを再考し、そのための取り組みとして、いくつかの集まりを計画してまいりました。エルフェデザインさんの協力で新しいプランが、この19日はぜひご参加くださいとお願いいたします。

今後の勉強会予定：大宝保育園公開保育 11月24日

●日 時	平成29年11月24日(土) 13時受付開始 定額15名 9時～16時30分
●場 所	大宝保育園園庭 6. 森のお部屋
●参加費	1名につき2,000円 (園付き車費は別途)
●プログラム	13:00～ 受付開始(受付開始後、園庭、園内見学自由) 13:30～ 園内体験(運動) 14:00～ 園庭再考 14:30～ 園庭再考(園庭再考) 15:00～ 子どもが園庭再考と再考(エルフェデザイン) 15:30～ 園庭再考(エルフェデザイン)

主催：エルフェデザイン 大塚園芸
協賛：エルフェデザイン
お問い合わせ先：エルフェデザイン
TEL:0276-223-9944 FAX:0276-223-9945
email: info@elfe.jp
http://www.elfe-design.com

大宝保育園公開保育 11月24日

北関東代表 大宝保育園 山内 清視 様

昨年11月の勉強会から小休止中。茨城の認定こども園つばさが先月に園舎を建て替えたため今後公開保育を計画中。(実施時期は未定)
また、大宝保育園では来年創立40周年を迎え、園庭をエルフェデザインさんに新しいプランを計画して頂いたそうです。

今後の勉強会予定：大宝保育園公開保育 11月24日

埼玉代表 いるま保育園 小川 勝利 様

昨年11月秋草学園短期大学を会場に勉強会を実施。授業の1コマとして学生80名も参加し藤森先生の講演、県内のG T園の実践発表も行いました。学生73名から回答頂いたアンケートを見ると92%はG Tを知らないものの、44%は「見守る保育」を知っている。「見守る保育」を聞いたことがある。を含めると80%という回答も得られました。

今後の勉強会予定：未定

東京代表 さくらしんまち保育園 小嶋 泰輔 様

メンズディスカッション、合同就職説明会、赤ちゃん学会での発表等を実施。11月のG T関東勉強会では、赤ちゃん学会の主要メンバーの遠藤様を講師として呼び出す予定。

今後の勉強会予定：GT関東 11月10日～11日

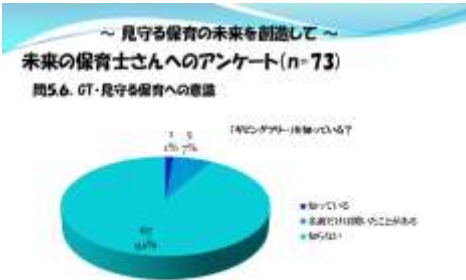
長野代表 さくら保育園 西田 祐恒 様

現在8園で勉強会を進め年2回大きな研修を行っている。昨年は新宿せいが子ども園の安藤先生をお呼びし、赤ちゃん学会で発表した内容で研修をお願いしました。勉強会を立ち上げた3園（さくら保育園、鈴蘭保育園、古牧東部保育園）は毎年、全国のG T園のどこかの園に見学へ行く活動を10年行っています。

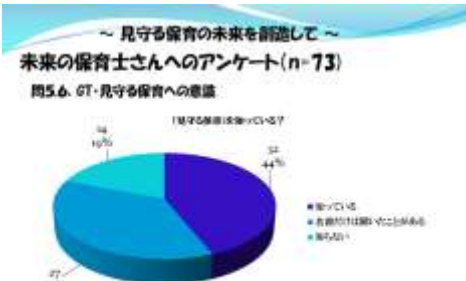
今後の勉強会予定：GT長野 11月17日～18日

福岡代表 るんびに保育園 檜崎 雅 様

現在20数ヶ園で勉強会を実施中。年に1度は藤森先生をお呼びし、講演と公開保育をセットで行い、10月の勉強会で15回を迎えます。そのほかにも年5、6回勉強会を実施。11月には第2赤ちゃん学講座



学生アンケート集計結果①



学生アンケート集計結果②



G T福岡 活動報告

を企画し、赤ちゃん学会の小西先生、三池先生をお呼びする予定。
 今後の勉強会予定：GT福岡10月28日～29日

長崎代表 みのり保育園 西村 承品 様

(1) Evolutional Projectの趣旨

- *互いに見合い、見守る保育についての研鑽と会員相互の交流を深める。
- *随時保育を公開することにより、自園の質を高め進化をさせる。
- *自園の取り組みをプレゼンすることで、個々の発信力の向上を図る。
- *見守る保育の社会への発信を行い、良質な保育を普及させる。

(2) 実施時期と内容

- ①基本的に毎年4/1～3/31の期間とし参加者と調整して開催する。
- ②午前～午後にわたる公開保育と意見交換
- ③管理職（園長・副園長等）による見学者へのプレゼン（15～30分）
 *園の概要（重要事項の説明など）*今年度の取組みなど *その他
- ④日程例 9:00 プレゼン 9:30 公開保育 12:30 昼食 13:30 意見交換
 15:00 公開保育 16:00 アンケート記入 16:30 終了

今後の勉強会予定：GT長崎9月1日～3日



G T福岡での今後の活動予定

熊本代表 城山保育園 豊田 泉 様

現在5園で活動中。園長の会、調理師の会、主任の会があり、
 今後は男性保育士の会、運動会やお楽しみ会も参加し合えるように
 していきたいと考えています。8月18日～20日まで藤森先生を
 お呼びしての勉強会を開催し17ヶ園、計143名の参加がありました。
 これまでは職員のスキルアップのために行っていましたが、
 今後は養成校の学生へも広く呼び掛けていきたいと考えています。
 今後の勉強会予定：2018年8月24日～25日

園名	園長	副園長	連絡先
福岡県 福岡市 東区 東区立東区立保育園	園長 藤森 先生	副園長 藤森 先生	〒815-0801 福岡市東区東区立保育園
福岡県 福岡市 東区 東区立東区立保育園	園長 藤森 先生	副園長 藤森 先生	〒815-0801 福岡市東区東区立保育園
福岡県 福岡市 東区 東区立東区立保育園	園長 藤森 先生	副園長 藤森 先生	〒815-0801 福岡市東区東区立保育園
福岡県 福岡市 東区 東区立東区立保育園	園長 藤森 先生	副園長 藤森 先生	〒815-0801 福岡市東区東区立保育園
福岡県 福岡市 東区 東区立東区立保育園	園長 藤森 先生	副園長 藤森 先生	〒815-0801 福岡市東区東区立保育園

G T長崎

Evolutional Project 公開園一覧

宮崎代表 稗田保育園 久松伸寛 様

現在は勉強会が立ち上がった状態。メンバーも先進的な勉強をして
 いこう！という雰囲気。長崎県の勉強会で実践発表の予定もあり、
 来年かけて宮崎での勉強会を計画中。
 今後の勉強会予定：計画中



プレッツェルで再開を祝いました！



懇親会の様子

セミナーを終えて思うこと

「GTサミットは年に一度の同窓会！」とよく表現されます。

カグヤに入社したばかりの頃は、誰がどこの園長先生か分からず、ただただ緊張していましたが、今では随分顔馴染みの先生も増え、1年に一度GTサミットでお会いできることを楽しみにしている自分もいます。

地域活動報告では、全国各地で行われた勉強会についての報告があり、年を重ねるごとに広がりを見せ、子どもたちが成長していていることを感じます。

「見守る保育」と当たり前言葉にしていますが、藤森先生は当初どんな思いで「見守る保育」と名付けたのだろうそんなことを思います。

中国、韓国、そしてシンガポールからも『見守る保育』を翻訳したい！講演に来てほしい！との依頼も増え世界に向けての動きが増して、今や世界の hujimori であることを改めて感じます。

この勢いは、まさに竜が天にも昇る勢いではないか！？

そんなことを思います。

今は国内のGTメンバーが集まるGTサミットですが、いずれは世界の保育関係者、教育関係者も集まる会になるのではと、そんな構想が頭の中で広がります。

先生方と夢を語れる、それは同窓会の醍醐味なのかもしれないと、セミナーを通して感じました。

(報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢)

●過去のバックナンバー

第23号

築120年古民家『聴福庵』④

第24号

臥竜塾年間講座③

第25号

築120年古民家『聴福庵』⑤

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿 3-2-11 新宿三井ビルディング 2号館 10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、QRコードからお願いします。

みのり保育園の西村先生が紹介したと思うが、全国大会のシンポジウムの第2分科会で助言を行った。これまで助言というと異年齢児保育、地域子育て支援だったのが、今回初めて乳児保育の担当だった。私は最近、乳児・胎児に興味を持っていて考え方が随分変わってきたところに依頼を受け、話をした。反響が大きく、いろいろな地区で乳児の話をしてほしいと依頼を受けて、民保協で乳児の講座を頼まれ今度話をする。いくつか最近考えていることを話す。

ドイツの保育

まず今年ドイツ行ってもそうだが、ドイツへ行って日本と大きく違うところで、ドイツにはポートフォリオが必ずどの園にもある。子どものその日の活動等を記録したもので、個人的なファイルになっていて保護者がいつでも見られる。基本的には保育者が作る書類は基本的にこれだけ。ここには今日どんなことをやったか、歌を歌ったらその時の歌詞が入っていたりする。原則保育中に作り、家に帰って作ることはありません。日本でもこれから必要になってくると思う。これがある代わりにないのが子どもに対する日誌やお便り帳、そういうものは一切ない。将来残るもので文章として個人のことを一人の保育士が書いたことがトラウマになってしまう可能性があるので残してはいけない。お便り帳などの評価になるようなことは残してはいけない。これはオランダでも聞いている。保育士が一人で書くと感想になってしまう。その代りに、その日の活動、姿を複数で書くという。写真構成が一つ行われ、どこの園にも個人別にあった。私の園では成長の記録と言って01歳では行っている。ドイツの人から「新宿せいがを参考に作りました」と言われびっくりした。成長の記録を見て、これがいいと作り出したと言っていた。それともう一つあるのが評価。園の玄関に評価が貼ってある。ただしこれは保護者の園に対してのもの。一つは保育園・幼稚園の評価。小学校の評価、学童の評価が張ってある。日本はなかなか保護者からの評価は難しい。利用者調査は質を高めることにつながらず、一部の意見で左右されてしまうということもあるが、ドイツでは利用差調査が必ず義務付けられている。「大変よい、よい、ふつう、もう少し」の基準で「もう少し」が次の年の課題になるそう。先ほど実習生が実習に行くときに憂鬱となる、というように評価されることをためらう。評価する側も評価が難しい。昨日、妻から保育に関する実話のドラマがやっていたと聞いた。保護者が園に「お宅の先生はピアノも弾けないし、歌もよくないし辞めさせる！」と詰め寄ったら、子どもたちが泣いて、「あんなに優しい先生はいない、いてほしい！」と言った。親の評価と子どもの評価が違うとドラマでやっていた。親はピアノが弾ける先生がいいと言うが、子どもは優しい先生がいいと言っていた。ドイツではポートフォリオという活動記録と保護者の評価が義務付けられ公開することになっている。ちゃんとした評価になってくれば園を見直すのにいい。

就学前までに身につけたい力—国語力—

違う話題になるが、昨日無藤先生も言っていたが就学前までに育ててほしい10の姿に「言葉による伝え合い」がある。『先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。』小学校へ行って国語の授業がある。主な目的の一つに文字による伝え合いがある。文字によって人の気持ちに受け取り、文字によってコミュニケーションを取る。書いた人の気持ちを受け取り、文章に書いて伝えるということがある。就学前は言葉による伝え合いがある。小学校に送り出して、文字によって伝え合う。言葉による

伝え合いの前に視線による非言語コミュニケーションがある。言葉によらない以前の言葉を遣わないコミュニケーション力をきちんと子どもたち身に着けないと、文字による伝え合いにならない。小学校の先生は言葉によって、先生に伝えてこない子が多いということが悩みだと言っていた。自分の悩みなどを言えない、つまり話す力・聞く力 コミュニケーション能力の一つがないと嘆いていた。その時に私が10年くらい前に小学校の先生が話す力が重視したときにどうしたらいいかと聞いてきたときに、まず最初に子どもたちに話す力が欠けてきている。「それは先生の聞く力が欠けてきているからです」と言った。私たちは聞く力をつけるべきだし、子どもたちに聞く力をつけるなら、私たちが話す力をつけないといけない。もっと聞きたくなる話し方をしないとけない。言葉による伝え合いが大事なのに、これを欠けさせているのが、お便り帳だと思っている。子どもたちが1日あったことを親に伝えなくて、先生が文章で伝えてしまうと、親が子どもに会ったときに、「今日何があったの?」と聞かないで、お便り帳を読み、お便り帳が書かないと苦情を言う。そうすると子どもは、言葉で伝えなくなると思う。

ドイツの保育から考える（レーゲンスブルクの事例より）※KITA へようこそ

ドイツでも世田谷のような冊子を配っている。最初から説明をしていくと、レーゲンスブルクである冊子を貰った。これはなかなか面白い。これが表紙、ようこそ、ということで登園する風景が特徴。（※会場でスライドを用いて説明が行われました。）3人保護者が書いてあるが二人は男性、一人は赤ちゃんを抱っこしたお母さん。ベビーカーを押しているお父さん。一緒に歩いているお父さんを見ると、2人はお父さんであることと、お父さんは手をつながないで歩いている風景。送迎では朝送って来た時そこでは、皆と仲良くなりなよ、迎えてで君が見たことやったことを聞かせてねという。先生は送りに来ない。帰りにいろいろ話してねと帰る。先生が代わりに話さない。先生がいないし、もちろん話さないし、お便り帳も渡さない。それよりも子どもがいっぱい話をする。もうお互いを信頼し合っている。ここにある文章11か国語で書かれている。私たちがあなたたちのために用意された部屋とゲームの数を見てください。左はブロックをやっている姿だがブロックは男の子がやることが多いが女の子がやる工夫をしている。ブロックの中にキラキラ光るものも入れてあって、それを組み立てるようにしている。もう一つの特徴はカプラもそうだが、積み上げるものが多いが一般の人が嫌な音が倒れたときのガシャというので不快ということで絨毯の上で行う。フローリングに倒れて響く音は、心が荒がれるということで絨毯の上で行う工夫をしている。ごっこや人形遊びも男の子も遊んでいる。実際の園を見ると、ごっこの中に男の子が好きそうな消防士、宇宙飛行士の衣装が置いてあると言っていた。ブロックには女の子がいけるような工夫、ごっこには男の子がいけるような工夫をしていると言っていた。本を読むところのまず一つは、本のコーナーにいるのが好きですという言い方は面白い。本のコーナーはひとつに本を読むことだけでなく、くつろぐという印象がある。寝っ転がりながら本を読んでいる。韓国もそうだが、すべての絵本のところにはクッションが置かれている。そこに寝っ転がって読むことができるような用意がされている。小学校の教室でもゴロゴロできるようにしている。座って本を読むではない。この本を読むと同時にもう一方で、先生は毎日本を読んでくれます。ここだけを見ると先生が一斉に子どもを集めて本を読んでいる姿を思い浮かべるが、子どもが読んでといった本を一人か二人を読んで読み聞かせている。子どもをまとめるために読むということをしなない。そのために日本では紙芝居があるが、今はあまりない。特に私は物語が好きですということが書かれ、絵本コーナーには物語が多く、図鑑は科学コーナーや制作コーナーには、そういったところに置いてある。この文章だけでも、どんな保育をしているかが分かる。園庭を見るとフレーベルが考えた頃の園庭で、起伏があり草木が生えている。走り回るのではなく、寝っ転がっているのも園庭。それから基本的に筋トレのものではなく、バランスをとる体幹を整えるものが中心。どこか怪我したとこない?と聞いているのは先生ではなく子ども同士。食事の場面、まず面白いのが食べている子たちがハイチェアで食べている子、車いす、全て異年齢で食べている。障がいの子も一緒、ドイツでは男と女も分けない。年齢、障がいによっても分けない。先生がりんごを持っているから何をするかと思ったら、私はりんごが好きですと言って手に持っていることから、先生も一緒に食べることが分かる。私がどうしても理解できないのが、机の下に落ちてい

る四角い物が何か理解できない。積み木のようなものがあるが、これが何で書かれているのかが理解できない。机の上にじかにプレツェルが置かれている。日本はまず送り迎えがやたら丁寧。一番忙しい時間に親にあったことを伝えないといけない、お便り帳を書かないといけない。その割に話す力が欠けていますという。小学校になったときに大事になるのが、時系列に書くということ。筋道によって書くことが重要な事柄。一日あったことを伝えることで本来力がつくことで大事なこと。どうしても今までの保育園は、親の就労支援から乳幼児教育の場と変わってきているから、変えていかないといけない。お便り帳は何のためか。親の教育を考えたら伝える力を大事にしないといけない。昨日、夕方言った就学前に必要なのが国語力と言ったが、日経新聞に就職に対して企業が国語と算数を重視していると書かれていた。この2つは人生の早い段階で確立される。20代中盤位までは著しく伸びる時期、ここを過ぎる中々能力が伸びない。先日こういうことが起こった。ある企業で「人の見ていないところで汗をかけ！」と言った。社風に感動した一人は「そんなところまで見てくれるんだ！」もう一人は「そんなところまで見られるんだ！」と同じ評価なのに二人がつぶやいだ言葉の意味は全く反対。まさに国語力の問題。後者の学生は当然落ちるだろう。それは面接官にとって「感じが悪い」からではない。こうした言葉遣いをする人は入社後も顧客に対してそう受け取ってしまうから。算数も同様だという。売り上げをなすために掛けた労力を数字で把握できない人間は、たくさん、とてもと曖昧な話に終始する。結局、英語を話せても国語力がない人は make と take の些細な違いに気づけない。これを遊びの中でどう体験していくか。昨日、言った大事な国語力。自分の国の国語をしっかりと話せることを紹介した。

見守るとは

昨日、電車の中の広告で見たことだが、飢えよりも戦争よりも出産が女性の命を奪っている。と電車広告に出ていた。私は昔、多分出産は女性の命を奪っていたと思う。生まれてくる赤ちゃんが一人に愛着を持って生まれたら、危ない。この前、警備保障の会社に警備を依頼していて、書類のところで不備があり指導を受けた。うちの園の担当の高取さんだったが辞め、担当がいたほうがいいと言ったから、もう一回考えてみた。確かに担当がいたほうがうちの書類のことが分かる。問題は担当が辞めたかではなく、一緒にやっていたらフォローできるがいなくなった途端、全て不備になってしまう。その人が辞めたときに困る。人類は予備を用意して生まれてくるはず。私が提案したいことはソーシャルネットワーク論。英語版の『見守る保育』にはそう書いてある。海外から「見守る」という言い方のとらえ方は藤森メソッド。英語版のタイトルには『mimamoruhoiku by hujimori method』と書かれている。そのベースが見守るフィロソフィーと書かれている。「見守る」の解説には、見守るという哲学をベースにして二者関係からソーシャルネットの中で、社会脳を育て保育を考えるのが私の考え方。モトワニさんから最初反対されたのは「保育=見守る」だと二重になると言われ、まず提案したいことがソーシャルネットワーク。幼稚園の発祥はお茶代付属のプレスクールとして始まった。保育室は教室を元に作られている。7×9mという通路を置いて子どもを見れるようにした。保育所は親の救済措置として作られた。特集の対談である園長と遠藤先生の対談をした。後半トーンが変わって来た。かつては愛着形成は二者間関係で考えられていた。育児という営みを社会で行われてきた。育児は社会の中で行われてきた営みが育児。最近の研究では、赤ちゃんから子どもが落ち着き、うまく機能することを集団的感性と呼んでいる。子どもが何か表現したときに敏感に感じて反応しようということ。最近では保育者は1人ずつを見るよりも集団で見た方がいいのではというのが出てきた。情緒的利用可能性と呼んでいる。保育者・親は必死に追いかけてまわしたりではなく、どんと構えて自分の活動にまぎ込みたいと思う時は、いつでも利用可能な存在でいるべき。それが見守っているということ。

最近の胎児の研究

胎内の研究から、もともと主体的な活動をしているという2つ根拠となる研究がある。最初は赤ちゃんに働きかけるというのが白紙論。いろいろな刺激を与えることで、何を減らすかは赤ちゃんが自分で選択している、何を刈り込むかを赤ちゃんは選択し、必要物を残していると言われ白紙論ではないと発達障害の考え方が変わってきた。バランスよく刈り込めないのが発達障害と言われ、海外では必要な存在、天才といわれている。人類が生きていくために必要な存在である。偏りのない人はただの人。ある研究者が懸念していることは早期教育をして早い時期から刺激を与えてしまうと、バランスよく削れない子が急増しているという。昔はほったらかされていたが、今は手を掛けられるからと手をかけてしまうと、バランスよく刈り込めないと言われている。「見守る」というと見ているだけというが、下手に介入するなら見ているだけでも十分だと思う。子どもは自ら学ぶ存在と言われ、大人がそこに刺激を与えたりする必要はないと言われているので、「環境を通して」というのはそういうことでもある。一人の人がずっと育児担当というのは変というのが一つある。重なることでもあるがゾーンがあって、選択することはスタンダード化してきているが、何で藤森メソッドというかと言うと、ある意味で異年齢というのが特殊な考え方だとわかった。助言を受ける時に異年齢の分科会の助言者になることが多いので、いろいろ論文を見たときにかくぜんとした。「藤森氏の異年齢児保育とは」と考え方が書かれてあり、ちゃんと言わないと誤解を受けると思った。私が考えているのとは全く逆。異年齢児保育を反対する人たちがいるが、何で反対するかというと2つある。子どもは年齢によっては発達が違うのにどうするの？というもの。4歳くらいに合わせたら3歳は難しいし、5歳には簡単だから異年齢ではなく、年齢別にすべきと言う。2つ目の理由は保護者に多いことだが、3歳が5歳と一緒にしたら危なくないかと言ってくる。私は2つをもっと表しているのが年齢別保育だと思っている。日本では年度別で4月から3月生まれの幅がある中で、どこに合わせているのかと思う。そうではなく一人ひとりの発達に合わせた保育をするべきだというのが最初のきっかけ。はっきりしているのは乳児をし始めたから。今の補助金制度では乳児0歳児クラスはその子の4月当初で入れる。すべての企業が1歳まで育休を取得できても1歳クラスかという4月現在では0歳なので0歳児クラスに入る。4/10生まれは1歳になるが少し歩き始めている。このくらいの差が5歳にもある。身の回りを見てください。リーダーシップをとっているのは4・5月生まれが多い。3月生まれはきつい。だから3月生まれは寿命が短いと言われている。年度で同じことをさせるではなく、発達に合わせていかないと卒園するまでに望ましい姿にさせられない。発達の連続性を保障しないといけないのが私の考えで、発達が違うことを一緒にしているのではなくて、一緒の子を一緒にしましようと言っている。保護者から園は子どもの発達を「どう見ているんですか？どう分けているのですか？」と聞かれた。その時に子どもが選択しますと言った。「子どもだから無理です」と言われたが、「赤ちゃんの部屋に触ったり、引っ張ったりするものとTVゲームと置いた時にどっちで遊びと思います？ちゃんと触ったりするものを選びますよ」と言った。子どもだから無理です。できませんと言われたが赤ちゃんでも十分にできるといった。3歳になり初めて選ぶときに選択条件を誤ることがあるかもしれない。友達がやっているから、親がやっているからと見栄を張るかもしれない。その時は難しくできなかつたら、先生はあっちをやったらと言えればいい。自分がどれくらいできるかに気付く力が大事になる。自分のことを把握できないといけない。3つ用意して直線切りと曲線切りと選択させることが一番言っている保育。生年月日では子どもは分かれぬ。ドイツでは0から6歳まで同じところにいるが、運動面は年齢別に行うと言っていた。その時の年齢別といったのでどう分けているかを聞いたら、発達が近い同士ピックアップして行う、それが年齢別保育と言っていた。日本のような年度別ではない。日本の親が思い込んでいることが大きい。2つ目の親の心配だが、最近小学校で異学年交流が増えてきている。特別活動でやることが多いが、異年齢の活動が増えてきている理由は異年齢交流をするほどいじめが少ないと言われている。異学年の方がいじめられるだろうというのは大間違い。同じ学年でやり、一斉にするほどいじめが起きる。3歳で一斉にやってできない子は目立つからいじめられる。今のいじめは年度別でやっている方が多い。もう一つ心配する理由だが、4つ目的があるがそのうちの一つが一人の発達を見て保育をすべき。発達が違うのを一緒にするのが異年齢児保育ではない、それは異

発達。もう一つが見学に来た人が驚いたことだが1歳児が汚れたものを自分でエプロンに片づける。それを0歳児がハイハイしたり、おむつがとれていない子もそうする。これをどう躰たのかと聞かれた。「仕舞っている1歳を見ているから」と言った。もっとも効果的な学習は見て真似をする学習方法だと言われている。これが刺激を受けるのが異年齢の発達を見ること、家庭では上のお兄さんを見ていたこと。オオカミ少女が発見されたとき四つ足で歩いていた。見てまねることは少し上の発達を見ないといけない。見られる方も振り返ることでしっかりしよう、教えることで能力を定着させると言われている。年長さんや345歳は衣装、劇は年度別で行う。何故かというと個人差は吸収ができる。劇を一つ年長だけで行い、台本を作り、振り付けをし、衣装を作る。年長がやるが3、4歳の前で行う。そうすると何が起きるかということ、次の年度になると「先生僕たちはこれで劇をする！」と言ってくる。年長だけでやっている子どもの遊びは伝承していかない。子ども文化を伝承していくためには上の姿を見ておかないといけない。これが2番目の意味。見てまねる行為を起こすこと。3つ目は保育園・幼稚園時代が年度別にクラスが作られています。そうするとずっと同学年でいく。今の子どもたちに色々なことを聞くと、地域で遊ぶのも同学年で遊ぶ。そうすると学童でも学年で分かれ、異学年で遊ばなくなってきた。園の近くの学校でも違う学年と遊んではいけないとなっている。大学まで卒業して就職すると会議では年上しかいない。私の娘の同期はおじさんを嫌がっている。そうすると職員会議中ずっと黙っている。終わった瞬間同期で群れる。異年齢になると黙ってしまう。同学年でしかかかわっていない。違う発達年齢で自分と違う経験がどこにもなくなってきた。それを経験させないといけない。生活の中では違う年齢と経験させることが必要。それが社会に出たときに調整しないといけない。見学者が来た時に将棋が流行っていた。5歳は大体5歳としているが、昨日は3歳とやっていたがルールを変えて自分は角を抜くからと相手によって遊びの内容を変えることは重要なこと。違う発達だから必要ということもある。4つ目は最近気づいたことだが白人警官が黒人を打つことが多かく研究で調べたら、今のアメリカの人たちは黒人が胸に手を入れるとピストルを出すだろうと思って恐れて撃ってしまう。本当は本を出そうとしていた。アメリカである実験があったが黒人と白人の写真を見せてどっちが盗ったかと聞くと白人に聞くと黒人と答える。黒人に聞いても黒人と答える。どっちに友達になりたいかと聞くと白人は黒人という。黒人も黒人という。区別することは認められているので黒人白人を分けていた人は、刷り込みを持っていると言われている。女は料理をしていればいい、男は外で働けばいいという人が多い。これは時代の影響で男は木工・園芸へ行く。そんな授業をしているから女は裁縫に行くのと分けている。今はやめましようかと分けなくなった。分けてしまうと刷り込みを持ってしまう。これが少しずつ日本で起きているのがインクルージョンと言うもの。統合保育と言うものがあつた。最近インクルージョンにしましようという。昔小学校に勤めていたころ、ある先生がテストを返却するとき点数の悪い子に「お前は障害学級へ行け！」と書いていてなんていう先生だと思った。下半身は不自由な子がいた。別にするのはやめようとしたし、足を使うところだけ変えた。雲梯などの方はその子の方が上回る。同じにするけど足のところだけは手伝ったりした。その子は普通学級に行った。筑波の巡回の先生がその子のことを心配した。あなたは障害を持っているから、あなたは体育見学ねというが、出来ないところだけ手伝えればいいが障害児とはと、してしまうがどこにケアが必要かと言うのと同じ。算数が苦手な子にそこだけ手伝えるのと何ら変わらない。外国にはすべての子にすべての教育をと言ってその子たちを別にするというわけではない。インクルーシブな教育と言ってきている。日本が相変わらず刷り込みは年齢。保護者がクレームを言う時に職員が若いからと言ってくるが年を取ったら善良になるのか。345歳一緒だと年齢よりも個人差を感じるようになる。今の4つの理由を考えたときに何で異年齢が広がらないのか分からない。多くの人は思いやりが育つけど、発達が違うからというイメージでやっている人が多い。何でメソッドかと言うと、もともと子ども主体に考えましよう。大人の都合ではなく子どもが何をしがっているかから年齢別がどうなのかと考えたり、担当性はどうなのかと考えたときに本来の人類から考えたときに提案していこうと考えてた。乳幼児期に一人ひとりの発達を遂げて10の姿を備えて学校に送り出してくこと。世界でも小学校では異年齢。せめて発達をさせる時は一人ひとりを大事にしましよう。何回も聞かれているかもしれないが私たちがしたいことの一つ。差別化のために考えているわけでもないし、一人ひとりの発達

を保障しようと思っている。私たちが進めたい保育はまだまだスタンダード化していないが、私たちはしっかり訴えていかないといけない。現場から考えていることを伝え、それぞれの地域でして欲しいと思う。それが日本よりも海外で注目されている。海外で「見守る」という言葉自体に日本の精神性を感じ取っているといわれる。見る、守るの二つが入っていることが今後の乳幼児期に大事だといわれている。私たちは普通だと思っているが、海外の人は言葉に惹かれているみたい。私たちは形だけしたいわけでも差別化したいわけでもないの、子どものためにできることを実践を重ね積み重ねて言うしかない。子どものことを考えてやっていると自信をもって自分たちの保育を進めて欲しい。迷ったときは子どもに何が必要なかを原点に戻って考えて欲しい。そういう時に皆さんの仲間がいること、何かあったらお手伝いしたいと思うので、園に戻ってトップダウンで行うのではなく揺るがない理念を持ち、職員を信頼することが大事だと思うので職員も一緒に進めている仲間なので、大事にしてほしい。職員の皆さんにも参加してもらえたらと思う。2日間ありがとうございました。

参考

KITA へようこそ [臥竜塾ブログ 2017年7月6日](#)

本稿は、2017年8月22日に行われたG Tサミット2017の「基調講演」の内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)